

「教会の誕生」-使徒行伝講解説教3-

創世記
使徒言行録

第11章 1節～9節
第2章 1節～13節

説教 本庄侑子 牧師

使徒言行録2章は、ペンテコステの出来事、教会の誕生を伝えます。弟子たちは、教会設立を計画し、入念に準備したわけではありません。ただ、集まって祈っていました。自分たちやこの世界を超えた、天からの出来事を待ち望んでいたからです。すると、「突然」、「激しい風が吹いて来るような音が天から聞こえ」、「炎のような舌が分かれ分かれに現れ」ました。人間の思想の風によるのではなく、人間が煽って燃え上がる情熱の炎によるのでもない、「突然」「天から」始まった。それが教会なのです。

かつて、世界は一つでした。同じ言葉を使って、同じように話していました。しかし、教会が生まれた時、世界はバラバラでした。創世記11章に《バベルの塔の物語》が記されています。私たちの罪の姿をえぐり出す物語です。

ある時、人々は最新の文明と技術を駆使して、天まで届く塔のある町を立てようとなりました。その目的は有名になるため。「天」は神の領域、「名」は支配を表す言葉です。彼らは、神のように支配する者になりたかったのです。

彼らは「東の方から移動してきた人々」(2節)でした。土地を奪われ、追われてきたのかもしれない。もう二度と散らされたくなかったでしょう。だから支配する側に立とうとしました。過去の痛み、未来への恐れや不安、自分たちを追い出した人々への怒りや憎しみが彼らに計画を立てさせたのです。

彼らは団結して計画を進めました。しかし、失敗に終わりました。敵の妨害にあったからではありません。通じ合えなくなり、内部崩壊したのです。散らされないために立てた計画だったが、決裂し、散っていくこととなりました。そして、その背後には神がおられました。神が、彼らの計画を妨げたのです。痛み、恐れや不安、怒りや憎しみによる計画と団結は、彼らを結局不幸にするからです。

神が私たちに望んでおられること。それは、私たちが一つになることです。しかしそれは、支配するためではなく、痛みや恐れ、怒りからられてでもありません。主イエスは、十字架につけられる前夜、祈られました。「すべての人を一つにしてください。」(ヨハネによる福音書17章21節)あなたと私を結びつけている愛の絆で、

人々を一つにしてください、と。

今から約2000年前、ペンテコステの日、神の願い、主イエスの祈りが実現し始めました。人々は聖霊に満たされ、「ほかの国々の言葉」(4節)で話しました。集まってきた人々は驚きました。そこにいた誰もが、自分のこととして迫ってくる救いの言葉を、故郷の言葉で聞いたからです。神はあなたのためにイエス・キリストを十字架につけられた。あなたはそれほど愛されている。聖霊が語らせた言葉は、散らされていた人々を一つにしました。

集まった人々の多くは、異なる国で生まれ育ったユダヤ人でした。彼らは希望を抱いてエルサレムに帰っていました。約束のメシアが到来し、自分たちの国が復興するという希望です。私たちは長く散らされ、支配されてきた。しかしついに、神が私たちの名誉を挽回してください、と。彼らの心に満ちていたのは、諸国への積年の恨みであり、誰よりも高い塔のある町に住むことへの渴望でした。彼らもまた、バベルの塔を立てた人たちと同じ姿をしていました。

しかし、神の約束が成就したペンテコステの日、彼らが耳にしたのは、後にしてきた故郷の言葉でした。聖霊が語らせた言葉は、彼らが支配しようとした人々を愛し、仕えるために向かっていきました。

「炎のような舌が分かれ分かれにあらわれ、一人一人の上にとどまった。」(3節)かつて、モーセが神に待ち伏せをされ、神の現臨に触れた時、柴が燃えていました。聖霊は、私たちを待ち伏せ、罪を焼き尽くす炎です。高い塔を建てようとする私たちの前にあらわれ、とどまり、方向転換させ、御心へと導く、神の熱情です。

聖霊は今も生きておられます。恐れや怒りによって神のようになろうとする私たちを妨害し、私たちを愛するあまりに十字架にかかられた主イエスのもとに集め、一つにしてくださいます。聖霊に満たし、愛によって、相手に届く言葉や方法で仕える者にし、お遣わしくくださいます。それが、教会の誕生以来、今日まで続いている教会の出来事、大阪教会に集められた私たちに今朝も起きている、天からの出来事です。

(記 本庄侑子)